

趣意書

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素から本学に対し格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

愛知医科大学病院高度救命救急センターは、1996年に高度救命救急センターの認可を受け、20年のドクターヘリ運営実績を誇る施設です。2023年には重症外傷センター試行施設に指定され、“全患者救命”をモットーに日々の診療に取り組んでおります。

2024年1月1日、令和6年能登半島地震が発生し、翌日には愛知医科大学病院DMATチームも出動しました。複数回にわたるドクターヘリでの支援や医療用コンテナ（CoMU）の出動、高齢者施設受け入れ活動など、長期間にわたり幅広い被災地支援を展開してまいりました。

今後も、自然災害の現場に限らずどのような特殊な環境の中でも、より良い医療を提供していくためには、近隣の重症患者の救命に向けた医療スタッフの現場派遣やDMAT活動における医療資源・物資の輸送ができる車両（ラピッドドクターカー）が必要であると痛感しています。

しかしながら、現行の5人乗りドクターカーでは、医療資源や物資の輸送能力が不足しており、病院前救護に制限が出てしまうことを懸念しています。そこで、この度の能登半島地震の発生を受け、その対応経験から、愛知医科大学病院による救急・災害医療における対応力の強化を目指し、納車から10年が経過する現行のラピッドレスポンスカーを更新することとしました。

「地域社会に奉仕する」という本学の理念のもと、我々が行う活動について多くの方に知っていただき、多くの方と共に地域医療を支える体制を確立するため、さらには南海トラフ巨大地震発生に対する緊張感が高まっている中、この度クラウドファンディングに挑戦する運びとなりました。

つきましては、誠に恐縮ではございますが、是非とも当センターの趣旨にご理解、ご賛同いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

令和6年9月吉日

愛知医科大学病院 高度救命救急センター長
愛知医科大学医学部 救急集中治療医学講座 教授
渡邊 栄三

愛知医科大学は2022年に創立50周年を迎え、次の50年に向け地域医療の革新・救急体制の強化に努めています。

これまでも愛知医科大学病院は全国で4番目にドクターヘリ事業を開始するなど、救急医療において先駆的な取り組みを続けており、基幹災害拠点病院として災害派遣や南海トラフ地震へ備えるなど、救急・災害の領域において地域の要として役割を果たしてまいりました。

これからも社会・地域からの要請に応え続けるため、愛知医科大学病院が展開する救急医療の更なる拡充や、近年頻発している様々な災害への対応力強化が求められており、ラピッドドクターカーの更新によってこれが成し遂げられるものと期待しております。

救命救急科が目標とする“全患者救命”の実現のため、皆様のご支援をよろしく願いいたします。

学校法人 愛知医科大学
理事長 祖父江 元

ご寄付金募集概要

1. 募集概要

タイトル：「だれひとり取り残さない、全患者救命を目指して。ドクターカーの更新へ」

募集金額：1,300万円

募集期間：2024年9月9日(月)9時～10月31日(木)23時 【52日間】

プロジェクトURL：<https://readyfor.jp/projects/aichi-med-ER>

形式：寄付金控除型 /All or Nothing

※本プロジェクトへのご寄付は、愛知医科大学への寄付として受け付けられ、税制上の優遇措置を受けることができます。

※本プロジェクトは、All or Nothingのため、目標金額に満たない場合、寄付金は全額返金となります。

※なお、本プロジェクトへのご寄付の有無が、現在の関係性に影響を与えるものではありません。あくまでも趣旨にご賛同いただけた場合のみで、もちろん結構でございます。

2. 資金使途

- ・ドクターカー（ラピッドレスポンスカー）の導入費用

3. お問い合わせ

愛知医科大学病院 救命救急科

メール：amu-cf@aichi-med-u.ac.jp

電話：0561-63-1957